

## 商人を追い出した理由

(マルコ11・15～19)

一、主イエスの怒りは何か？

15節、16節をご覧ください。へこうして彼らはエルサレムに着いた。イエスは宮に入り、その中で売り買っている者たちを追い出し始め、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。また、だれにも、宮を通って物を運ぶことをお許しにならなかった。とあります。エルサレムの神殿で、ここに来る巡礼者のために、犠牲として献げるための鳩や羊を売っている商人、あるいは、当時の公用通貨であったローマ貨幣を神殿で献げるときに使うシェケル銀貨に両替する商人を主イエスが追い出し、台を倒されたというのですから、尋常ではありません。

ですが私たち教会は、ここに神が主イエスを通して御意思をお現しになったと読む必要があります。では、主イエスがこれほどまでに厳しく出られた理由は、何だったのでしょうか。17節をご覧ください。そして、人々に教えて言われた。『わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではないか。それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしてしまった。とあります。『わたしの家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれる』は、預言者

イザヤからの引用です。神殿は祈りの家であると主イエスは、すなわち神は語られました。イザヤが「後の日」に、あるいは「終わりの日」に、異邦人たちもそこにやって来て全焼のささげ物をするようになる」と語った箇所です。ならば、イスラエルがそれを実践していないとは何事か、という意味で憤り、行動を起こされた」と読むことができます。さらに主イエスは、もう一つのことを引用されました。『それなのに、おまえたちはそれを『強盗の巣』にしてしまった。』がそつです。こちらは預言者エレミヤからの引用です。それにしても、「強盗の巣」は、きついですね。主イエスが彼らに厳しく接された理由は何なのでしょう。どういう意味があるのでしょうか。

二、だれに語られているか？

この出来事は、四つの福音書に取り上げられています。四つの福音書に取り上げられるのは珍しいことです。理由として考えられるのは、四つの福音書がそれぞれに発行された時点で、教会が、主イエスのなさったこの出来事が必要としていたからです。

マルコの福音書、マタイの福音書、ルカの福音書が発行されたとき、エルサレムの神殿はユダヤ戦争でローマ軍に破壊された後だったかも知れません。ヨハネの福音書が発行されたとき、エ

ルサレム神殿は確実にありませんでした。なのになぜ、この話を福音書に載せたのでしょうか。それは、教会が必要としていたからです。私たちはそこに目を留める必要があります。それが明らかになると、時代と文化を超えて、私たちが対するメッセージが何であるのかが見えてまいります。

1世紀の教会がどんなであったのか。それを知る格好の資料は新約聖書です。はっきりしているのは、キリスト教会には、キリストの再臨を待ち望むものの、再臨が来ないという問題がありました。マタイの福音書24章に、こういうたとえがあります。へしかし彼が悪いしもべで、『主人の帰りは遅くなる』と心の中で思い、仲間のしもべたちをたき始め、酒飲みたちと食べたり飲んだりしているなら、とあります。これは、主イエスが語られたたとえですが、この話を聞いているのは紀元1世紀の教会であり、それ以降連綿と続く教会です。しもべとは、教会のリーダー的存在です。1世紀の教会時代に、すでに悪いリーダーがいたことを知ります。もちろん良いリーダーもいました。それを知って、今一度今回のテキストを見てまいります。

三、主イエスの指摘は何か？

主イエスは当時の人々に、そしてキリスト教会に何を指摘されたのでしょうか。

うか。考えられることの第一は、自己満足に対する警告です。イエス時代の神殿の運営は、それなりにうまく行っていました。私たちに当てはめるなら、ほとんどのことが比較的順調に行っているように見えるときです。それは感謝なことですが、これで自己満足してしまったり、怖いのです。「私たちは取るに足りないしもべです。なすべきことをしただけです」(ルカ17・10)と口にする姿勢がたいせつです。それはどこからやって来るのでしょうか。上からやって来ます。聖霊によってもたらされません。そつでなかったら、意味がありません。

主イエスが当時の人々に、そしてキリスト教会に指摘されたことの第一は、肉の熱心から解放されることです。人間の熱心は時として臭気を放ちます。では、どうしたらよいのでしょうか。主イエスを信じて、聖霊にゆだねて、自然体で生きることです。そのためには、主と共に歩むことです。主の導きに先行してしまつては、あるいは主の働きに大きく遅れてしまつては、主と共に歩むことです。やはり、聖霊による導きをたいせつにすることが必要です。

皆さん。余りがんばらないでください。もちろん主の導きを知ったときには、大いにかんばってください。その時は、御霊が助けてくださいます。